

兒童心理學文獻抄 二

牛 島 義 友

同胞數と出生順位の影響

一 家庭的環境

人間性を構成して行く主要點は遺傳と環境とである。同じ優秀な素質を持つた者は何時の時代、どの社會に於ても常に同じ様な成果を現はす譯ではなく、或者は輝かしき名聲を史上に印し、他の者は僅かな人々に記憶される丈で終つてしまふ。英雄が時代を作るのか、時代が英雄を生むのかは興味ある問題である。生まれ環境が人間生活に著しい影響を残す事は申す迄もなからう。

人間性を構成して行く環境としては歴史、社會、家族、及び自然的風土が考へられる。一定の歴史を持つた民族生活はそれ／＼個有の性質を醸成して來る。日本人と支那人の

心性の相違等を研究するに民族性心理學が成立する。又熱帯に住む者と寒帯に住む者、高原に住む者と平原に住む者はその性質が著しく相違して來る。之は風土心理學の問題である。併し普通狹義の環境として取扱はれるのは社會並びに家庭である。先づ家庭的環境について考へて見やう。

家庭を構成してゐる色々の要素を考へて見るに兩親、兄弟、親の職業並びに資産等が數へられるが、先づ同胞の數なる家族的關係に就てマラーの研究を紹介する。

A 同胞數

家族の數と子供の性質 (J. B. Maller: Size of family and Personality of offspring. Jour. of Social Psychol.

Vol. II 1931)

多人數の家庭の子供は少人數の家庭の子供と智能、性格

に於て相違するであらうか、又一人子は何か特殊な性格を持つ者であらうか、この點を研究する。一つの社會層に就ての研究から丈で結論するのを避ける爲に先づ都會の中流社會を代表するE校と田舎のW校、及び都市の下層社會を反映するL校の三校生徒八百二名に就て調べる。

先づ一家族内の子供の數を調べて見るに平均してE校二・八五、W校三・〇八、L校四・二六名となり、都會よりも田舎の家族の方が、又それより下層社會の家族の方が子供の數が多くなつて居る。所謂「貧乏人の子澤山」である。次に智能を見る爲にソルンダイクの智能検査をなし、その果ミ子供の數ミの相關係數を出した所、 $r = .205$ となつた。即ち、子供の數がふえる程それミ反對に智能が低下するといふ關係を示すものであつて、子供が一名乃至三名居る家庭の子供はそれ以上の多人數の家庭の子供よりも智能が優つてゐる。次に性質の方を調べる。先づ協力的に就て性質検査をなして調べた所によるミ、四、五人の子供の家庭の者が尤も協力的で、一人子は想像される程非協動的ではなく、十人以上の大兄弟の子供が最も協力的でない。

かゝる家族では親の配慮が行き届きかねるので各人が獨立的自主的になるといふ特徴のある代りに非協動的缺點も自ら生じて来る。慈悲心ミ家族の數ミの相關係數は $r = .155$ となり、多人數の家庭の子供程、他人の事を心配する事が少なくなる傾向がある。以上はテストの結果であるが、教師が生徒を奉仕的精神或は協力心に就て評定した結果も同様に多人數の家族程奉仕的精神は薄らいで来る。之に對し不撓不屈の精神をテストした結果は相關係數 $r = .139$ と同じく克己心の場合には $r = .102$ となり、意志力といふものは多人數の家族に於てよりよく涵養されて居る。正直性は、少人數の家庭の子供の方が正直になつて居る。大家族は、斯る點では面白い結果を與へない。

以上の諸點を概括して云ふミ、一人子は智能、道德的知識、文化的背景、正直の點では普通以上であり、協力心、不撓不屈の精神は人並みであるが、克己心は劣り、又教師からは是等の點で悪く見られて居る。兄弟が二人乃至四、五人程の中家族の子供は智能、正直、克己心、教師並びに同輩の評價の點では最も優れてゐる。大家族の子供は智能、

道徳的知識、文化的背景、正直、協力心、親の智能等に於て最も低く只克己心、不撓の精神に於て最も優れて居る。

尙此研究と同じ問題を吾邦の守田保氏(兒童の成績と環境との統計的研究兒童研究所紀要八、九、十卷)が學校席次と兒童の家族の數との關係をみたものでは次の如く家族多數の者の方が席次は上位である。次の表の値は十點を最良一點を最低とする。

家族數	席次指數
一人	五・八三
三人	六・〇六
六人	六・四七
九人	六・八〇
十二人	八・〇〇

B 出生順位

以上は家族の多い少ないの問題であつたが次に長子であるか次子であるか末子であるかといふ出生順位が智能或は性格と關係があるであらうか否かを見る。俗に長男の甚六等云ふが果して斯る事實があるのであらうか。

低能者が末子に多いといふ説をブルウソウ及びヴァン・デア・セールが述べてゐる。即ち前者は五百八十三名の低能

者の五十七%は末子であつた云ひ、後者は第五子以下に低能が多い云つてゐる。之に對してミッチェル・ダウン・クールマン等は長子に多い云ひ、リバース、デートンは中間の者の方に、却つて多い云つてゐる。故に、此點は未だ未解決の問題である。次にエリスが英國の天才、偉人を研究した所による末子よりも長子の方に偉人が遙かに多く出てゐる。この場合長男が家督を繼ぐといふ風な關係から最も有利な條件にある爲に偉くなるといふ事が考へられる。次に以上の如く低能者或は偉人ではなく普通の兒童に就て出生順位と智能とを調べて見る。

青木誠四郎氏(生活の諸條件と智能並に學業成績との關係、兒童研究所紀要五六七卷)が女學校一年生二百名に就いて出生順位と智能並に學校成績をみた處智能は殆んど差違はなく、只學校成績は末子の方が悪い、智能指數で學校成績を除いた成就率(之は努力の程度を示す)を見るに第三子位が最も努力して居り末子になる程努力の跡が無くなつてゐる。

出生順位	智能指數平均	學業成績	成熟率
長子	九八・三	一〇〇・三	一〇四

二子	一〇一・三	一〇四	一〇三
三子	九五・五	一〇一・三	一〇四
四子	一〇二・〇	一〇一・五	一〇二
五子	一〇〇・六	一〇二・八	一〇〇・六
六子	九八	九五・四	九八
七子以下	九八	九一	九八

即ち智能には相違がなく、努力の點で相違して従つて學業成績は變つて來る。

シャオが小學兒童及び中學生に就き、長子と次子との智能の比較を試みた所、智能だけでは同様に統計的に信頼するに足る差異なしと云つて居る。斯る點より見れば智能自身は出生順位と餘り關係なく情意的方面即ち性質に於て相異が生ずるを考へられる。

この性質に關係してはグロドエナフ及びリーヒイの研究がある。女史等は幼稚園の園兒、二百九十三名の諸性質につき保姆が觀察評定した結果を纏めて居る。觀察が信頼出来る爲に一學期以上在園の園兒に就て十四の性質から評定したものである。この中出生順位によつて異なつて來る様な諸性質を上げるに次表の様になる。

以下	46	48	13	21	4	15	13	17
末子	124	45	44	36	8	20	11	6
中間子	59	36	31	30	15	24	17	14
長子	64	23	30	48	21	28	25	9

表は各性質の點數を

擧げてあるので、點數の多い程それらの性質の著るしい事を意味する。即ち長子は攻勢的でなく引籠りがちで

内向的であり、従順で更に臆病で、自信がなく他人の暗示に最もかかり易い。之に對して

末子は攻撃的であるが、自分に垣を造り従順でなく他にも影響されず感情的でない。即ち前者と反對の性質を帯びてゐる。一人子の場合には更に攻勢的で、他に對して垣を作る事はないが他に從ふ事を欲せず自信に満ち、感情的である。今一人子の事が出たが之に就ては色々の研究がなされて居る。

例へば、兼子宙氏二人子の學級内での人氣、教育心理研究七卷は小學校三學年から六學年まで十學級、人員男女合

計四百八十二名の中四十三名の一人子に就いて其クラス内の人氣を研究した。其遣方はクラスの各生徒に夫々級の中の仲好しの友達の名を仲の悪い者の名を列記させた。而して仲好しとされる者も嫌はれる者も一人子の場合も一人子ならざる場合も如何に相違するかをみる。其結果は一般的に云ふも一人子は非一人子よりも仲好しとされる事が少い傾向があり、嫌はれる數で云ふも多くなつてをる。併し極めて人望のある者(友人とされる數の多い者)だけに就いて見るも一人子の方が非一人子よりも多い、即ち次の如くなる。

友人二十四—二十六人あるもの 二十七人以上あるもの

一人子の中に 九・三%

非一人子の中に 四・一

反對に非常に嫌はれる者も一人子の方に多い。

五・四

嫌はれる數十五人以上のもの

一人子 一一・七%

非一人子 五・七

要するに一人子はクラス内では一般に氣受が悪く友人と云はれる事が少い傾向があるが、又非常に人氣のある者に

もなり、非常に嫌はれる者にもなる。即ち兩極端に流れる傾向もある。併し斯く云ふも一人子は非常に他と相違した困つた性質を持つ様に考へるかもしれぬが一人子が必ずしも全部神經質であつたりヒステリカルであつたり、手が付けられない者ではなく、又學業成績等も決して劣るものではない。尙一人子については山下俊郎氏が詳細な論述をなされて居るから参照されたい。(一人子の心理及び教育に関する諸問題、教育心理研究第八卷)。

以上、家庭的環境中、家族の數並びに出生順位につき、最近の諸研究を紹介したが、この種の研究は兒童心理學の中でも最近の研究であるので研究結果は必ずしも一致してはるないが將來に於ては必ずやより確實なる結論が下され、教育指導に重要な參考資料を提供するに至るに信ずる。